

学会記事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています。

2018年度第1回理事会議事録

日時：2018年5月19日（土） 15:30～16:50

会場：北とびあ 第2研修室（東京都北区王子1-11-1）

出席役員：理事（37名）：天野一男 安藤寿男 磯崎行雄 緒方信一 岡田 誠 折橋裕二 笠間友博 狩野彰宏 神谷奈々 亀尾浩司 川端清司 北村有迅 小宮剛 斎藤 眞 坂口有人 佐々木和彦 菖蒲幸男 菅沼悠介 杉田律子 高嶋洋 竹下 徹 田村芳彦 田村嘉之 辻森 樹 中澤 努 西 弘嗣 早坂康隆 平田大二 廣木義久 福富幹男 星 博幸 保柳康一 松田博貴 道林克禎 矢島道子 山口耕生 山路 敦

監事（2名）：藤本光一郎 山本正司

欠席役員：理事（13名）：石橋 隆 井龍康文 岩井雅夫 ウォリス サイモン 大藤 茂 亀田 純 小松原純子 沢田 健 竹内 誠 奈良正和 楡井 久 三田村宗樹 山崎晴雄

*成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者37名で本理事会は成立。

*議決：出席者の過半数 19名

*開催にあたって

1) 出席理事及び監事自己紹介

2) 書記2名の指名 北村理事・坂口理事

審議事項

1. 理事会議長・副議長の選出

議長に狩野彰宏理事，副議長に杉田律子理事が選出された。

2. 会長＝代表理事，副会長の選出

会員による意向投票を鑑みて，下記の会長及び副会長が選出された。

会長＝代表理事：松田博貴 副会長：佐々木和彦・平田大二

3. 執行理事の選出，部会長の選出

執行理事および部会担当については立候補時の本人の希望を考慮し，会長より下記の提案があり，提案通り選出を了承した。アンダーラインは部会長。

常務理事：斎藤 眞，副常務理事：安藤寿男
運営財政部会：緒方信一・西 弘嗣

広報部会：坂口有人・小宮 剛

学術研究部会：磯崎行雄，ウォリス サイモン・岡田 誠・辻森 樹

編集出版部会：大藤 茂・田村芳彦

社会貢献部会：星 博幸・廣木義久・中澤 努

4. 業務委員会の確認

各部会付きとは別に，理事会の下に下記の委員会があることを確認した。

理事会規則14条1項設置：支部長連絡会議・地質災害委員会・名誉会員推薦委員会・各賞選考委員会・男女共同参画委員会・ジオパーク支援委員会

理事会規則14条2項設置：法務委員会，地学オリンピック支援委員会，連携事業委員会，地質用語国際標準対応委員会

5. 各賞選考委員会委員の選出

専門バランスを考慮して以下の10名を選出した。任期は2年，委員長は1交代も可。

層序系：保柳康一，亀尾浩司，小松原純子，竹内 誠（武藤鉄二，伊藤 慎）

岩鉱系：道林克禎，折橋裕二，山口耕生（田村芳彦，海野 進）

構造系：（山路 敦，大藤 茂）

博物館：笠間友博，川端清司

民間企業：菖蒲幸男

○役職指定委員：前・現の地質学雑誌・アイランドアーク編集長および副編集長

山路 敦，大藤 茂，田村芳彦，武藤鉄二 伊藤 慎，海野 進

専門で分けた場合，上記（ ）のように当てはまる。

*この後，委員の互選により委員長は竹内理事を選出し，本人の了承を得た。

6. 京都大学防災研究所の国際共同利用・共同研究拠点認定の推薦に関する要望書提出の件：審議の上，正式な要請書が届き次第，推薦することとした。ただし，このような案件は本来執行理事会が処理すべき内容であるが，次回執行理事会の開催タイミングも考慮し，今回は理事会で判断することとした。

7. その他

チバニアン国際標準模試地の審査経緯に関して，学会としての立ち位置を確認したい旨，山口理事より意見があった。学会としては科学的な事実認定を尊重する立場であり，今後は会長が中心となって対応することを確認した。

以上この議事録が正確であることを証するため，議長及び副議長出席監事，理事は次に記名捺印する。

2018年5月19日

理事：議長 狩野彰宏

理事：副議長 杉田律子

代表理事：会長 松田博貴

（以下，理事名省略）

2018年度第2回理事会議事録

日時：2018年9月4日（火） 15:00～17:15

会場：かでの2.7 730研修室（札幌市中央区北2条西7丁目）

出席役員：理事（34名）：天野一男 安藤寿男 石橋 隆 磯崎行雄 岩井雅夫 ウォリス サイモン 大藤 茂 緒方信一 岡田 誠 折橋裕二 狩野彰宏 神谷奈々 亀尾浩司 亀田 純 川端清司 小宮 剛 斎藤 眞 坂口有人 佐々木

和彦 沢田 健 菅沼悠介 杉田律子 高嶋 洋 竹内 誠 田村嘉之 辻森 樹 中澤 努 楡井 久（1時間遅刻） 早坂康隆 平田大二 廣木義久 保柳康一 松田博貴 矢島道子

監事（1名）：藤本光一郎

欠席役員：理事（16名）：井龍康文 笠間友博 北村有迅 小松原純子 菖蒲幸男 竹下 徹 田村芳彦 奈良正和 西 弘嗣 福富幹男 星 博幸 三田村宗樹 道林克禎 山口耕生 山路 敦 山崎晴雄

監事（1名）：山本正司

成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者 34名で本理事会は成立

議決：出席者の過半数 18名

開催にあたって書記名の指名：田村理事，竹内理事

報告事項

1. 執行理事会報告（斎藤常務理事）

・2018年度第1回～第3回執行理事会議事録から抜粋して，報告があった。

・会員動向：3685名（9月現在），5月以降の逝去者5名に対し，黙祷にて冥福を祈った。

・松田会長より，チバニアンの国際標準模試地の審査経緯と審査の妥当性についての声明を，News誌及びHP上に公表したことが報告された。

2. 理事及び委員会等報告

1) 行事委員会（岡田理事）

・台風21号による荒天時の開催の是非は，緊急時対応に基づいて決定する。開催が中止となった場合，学生に対しては昨年の例に基づいて対応する。

・巡検のレンタカー使用について：緊急時対応のレンタカーの使用を認めた。案内者には使用について誓約書を提出してもらう。

・2019年山口大会の日程：9/23-25（大会），26より巡検。巡検は8コース（全日帰り）

2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

・これまでの投稿状況の報告があった。

・125周年記念号は8タイトル出版済み，残り2は2019年3月までに出版の予定。

・地質学雑誌編集委員交代の報告があり，理事会はこれを承認した。

3) アイランドアーク編集委員会（田村理事，安藤理事代理報告）

・編集状況の資料をもとに報告された。

・Wileyの5つのプロモーション活動について報告があった。投稿から出版までに時間がかかることにに対し，専任の編集者を雇うことは現実的でなく，サポート要員のための資金として学会から年間20万円を限度に支出することが報告された。

4) 広報委員会（坂口理事）

学術大会のプレスリリースを道政記者クラブに行ったが，参加は1社のみであった。

5) 125周年記念事業実行委員会（矢島理事）
・記念式典について，報告された。同記事が

ニュース誌8月号に掲載された。

- ・記念出版物は進んでいるが、出版時期が未定のものもある。
- ・学術交流協定締結各国から招待講演者を得て、学術大会で開催される記念シンポジウムの趣旨説明と参加要請があった。

審議事項

1. 地質学会各種委員会の再編・統合について

松田会長より、現況の学会運営にあわせた体制の再検討をしたいとの意向が示された。続けて、佐々木副会長より、12月理事会に体制の再編案を提示し、2019年4月理事会で審議、5月の総会までに決定したいとのスケジュールが示された。

関連して、天野理事より、ジオパーク支援委員会にはJGCとJGN関係の委員2名がいた方が良好とのコメントがあった。松田会長より各委員会の経緯に関する情報提供のお願いがあった。本件は、提案の方向で進めることが承認された。

2. 地質学会主導の大型研究マスタープランについて

小宮理事より、日本学術会議のマスタープランの経緯について以下の説明があった。今回は2020年に向けての第4回マスタープランの提言をおこなった。重点研究に採択されれば、総額数十億円から150億くらいのプロジェクトになる。①大型施設（コミュニティ）を作り、②大型研究を進めるなど、学問全体に貢献できるようなテーマとして地質試料をアーカイブ化し、共用できるような施設を提案する。申請資格者は学会、大学のトップ、日本学術会議のメンバーである。2018年3月にヒアリング。今後のスケジュールは2018年11月頃応募要領、2019年2月公募開始、2020年2月頃選考結果発表である。日本学術会議が採択・提言したとしても、プロジェクト実施の可否は国が決定する。

これに対し、国の価値観も踏まえて考えるべきではないか、JAMSTECや国立科学博物館が持つ地質試料アーカイブとの関係はどのように考えているのか、既存の施設に集約・運営してもらおうとよい、最先端のテーマでなくともよいのか等の活発な意見があった。

小宮理事は、現状での学術的成果の重要性を訴え、将来の地質学の成果のために試料の集約を目指す必要であるとの見解を示した。

松田会長から、大型研究マスタープランに関する学術大会の夜間小集会や今後の理事会などを通じて会員の意見を広く求めて、公募スケジュールに迅速に対応できるように準備すべきとの所存が示された。

3. ジオルジュの発行について（坂口理事）

昨年度の理事会での経費削減の要請に対して、新設した企画協賛ページの収入によって目標の削減額がほぼ達成された。今後は、記事単位に広告をつけてPDFで販売することを試行する。ジュンク堂博多店などで配布したフリーペーパーも好評で他の書店からの引き

合いもあり、地質学の普及のためにも本年度以降の出版を承認していただきたい、との提案が坂口理事よりあった。

これに対し、読者にフィードバックできる企画新設、と博物館友の会での取扱拡充や、年2回の発行頻度を増やす、坂口理事の業務負担を補填すべきなどの活発な意見があった。

ジオルジュ発行に対しては肯定的な意見が多く、今後も経費削減の努力することで、年2回の出版を承認した。

4. その他

神谷理事（大学院生）より、特に女子学生用に宿泊施設のシェアできるような方策を作ってもらえないかとの提案があった。

これに対し、HPで学生が交流できるページを作ると意見交換ができるのではないかなどの意見があり、行事委員会で前向きに検討することになった。

2018年10月26日

理事：議長 狩野彰宏

理事：副議長 杉田律子

代表理事：会長 松田博貴